

環境厚生委員会

所管事務調査

- 富士宮市が目指す地域循環共生圏について（政策課題）
- 富士宮市のごみ処理の現状について

【中村 憲一 委員長 コメント】

政策課題の成果として、地域循環共生圏の理念を持続可能な地域づくりのための再生可能エネルギーの導入を推進する条例として具現化することを3月に決定して以来、関係各所も交えて議論を重ね、いよいよ例規審査委員会※に付議する委員会案を決定することができました。

持続可能な地域社会の構築を念頭に、再生可能エネルギーの導入の推進に関して、市、市民及び事業者の責務を明らかにすることにより脱炭素社会の実現を図るもので、政府が表明した2050年まで



▲清掃センターでのごみ分別状況調査

に温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする目標にも適った内容となっています。

また、富士宮市のごみ処理の現状については、清掃センターにおいて可燃物収集日に、集積場所から収集車によって搬入される可燃ごみ内の不燃物、資源ごみ等の混入状況を調査しました。不燃物の混入はほぼ見られませんでした。段ボール等紙類の混入が散見されました。透明なごみ袋の使用率は70～80%であり、更なる向上が求められます。

※条例、規則、規程等の制定や改定、廃止に関すること等を審査する富士宮市役所内の組織

産業都市委員会

所管事務調査内容

- 滞在型観光について（政策課題）

【植松 健一 委員長 コメント】

政策課題である「滞在型観光について」を重点的に話し合いました。

2年間に及ぶ政策課題についての研究も終盤を迎え、成果としての政策提言の取りまとめを行いました。1年目である令和元年度当初はインバウンドや国内旅行の需要拡大を期待して、当市の滞在型観光の在り方について議論しておりました。しかし、年度終盤からの新型コロナウイルスの感染拡大とともに、インバウンド、国内旅行ともに制限や自粛ムードが高まり、政策課題も方向転換を強いられることとなりました。

しかし、コロナ禍においてもアウトドアレジャーは比較的安心なレジャーとして社会的にも認知され人気は衰えることなく現在も推移しています。そのようなことから2年目である令和2年度は、朝霧地区をアウトドアレジャーの聖地としていこうという声が上がリ、残された時間が少ない中、それに向けて委員一丸となって調査研究を行なってきました。これから状況に即した意義のある政策提言ができるものと考えています。



▲田貫湖畔にある日月倶楽部施設内での視察